

東北文教大学・東北文教大学短期大学部 図書館報

発行 東北文教大学・東北文教大学短期大学部附属図書館 〒990-2316 山形市片谷地515 ☎023-688-7544

目次

- 私と図書館…………… 1
- 私のおすすめ本…………… 3
- 平成21年度 図書館報告（山形短期大学）…………… 4

私と図書館

東北文教大学副学長 鬼 武 一 夫

私は小学校から高校まで大阪と京都の中間に位置する大阪府茨木市という、当時人口約3万人程度（今は27万人程度）の小さな衛星都市で過ごした。茨木城の城主は、徳川家康が難癖をつけた京都方広寺の鐘銘事件「国家安康 君臣豊楽」で歴史に名（大阪人には汚名？）を残す片桐且元であり、小学校はその城趾にあった。そのため、鐘銘事件は折に触れて聞かされたので、未だ持って徳川家康には好感を持ってない。すり込み教育恐るべしということか。茨木市にはそれ以外にも継体天皇の墳墓論争になった全長200mを超す前方後円墳もあり、自転車でその周囲を走り回って遊んだのも懐かしい。



（継体天皇陵？と言われる太田茶臼山古墳：茨木市のHPより）

中学・高校は茨木市から国鉄（今のJR）で8分程の距離の高槻市にある中・高一貫教育の男子高に通っていた。同市にある高槻城趾はキリシタン大名の高山右近が城主であったことでつとに有名である。高山右近も歴史に足跡を残す著名人であり、米沢のキリシタン処刑事件の際にもその名前がでてくる。また、学校の近くには楠木正成・正行の今生の別れの地である櫻井の駅があるなど、私が過ごしたコンパクトな地域は、歴史の缶詰といってもよいほど大小様々な歴史的遺跡や史実にあふれていた。

その一方で「部落」（「被差別部落」）問題という「差別（意識）」を生み出したのも大阪を中心とした関西地区である。

私が小学校に上がるまで育った山口県の片田舎は、本州で唯一ナベツルの渡来する八代村（当時）の山一つ東

に位置し、5つの村からできていて、それぞれ部落とよんでいた。部落対抗の運動会等もあり、部落という言葉は差別でも何でもなく、ごく当たり前の言葉であった。その部落という言葉が「部落」として意識させられたのは小学校3年生の時である。クラス替えがあつて初めて一緒になった級友の中に仲間外れにされた女の子がいた。私はそのようなことは意に介さず一緒に遊んでいた。ある日近所の人から「遊ばない方がよい。怖い目に遭った人が多い場所に住んでいるから」と言われた。その意味がよく分からず、父に聞いた覚えがある。父は常日頃から「仲良くしなさい」が口癖であり、私の問いには「気にする必要はない。仲良く遊べばよい」の一言だった。

「部落」のことについて、改めて考えるきっかけを与えてくれたのは、高校1年生（昭和32年）の時である。朝日新聞が部落問題特集を組み、部落の成り立ちから差別への道について連載を始めた頃と重なる。地理担当の長谷川先生は大変ユニークな先生で、授業の中で社会問題になっているテーマについてクラス討論をさせた。今で言うディベートに近いかも知れない。先生は一切口出しせず、クラスで議長を選ばせ「賛成！反対！」と侃々諤々討論をさせてくれたのである。その討論のテーマが部落問題だった。討論の条件として、各人が可能な限りテーマの内容について調べ上げ、今のレポートに当たる「感想文」を原稿用紙4～5枚程度にまとめて提出する義務もあった。

当時の高校の図書館には小説程度の蔵書が僅かにあっただけで、また、茨木や高槻の市立図書館もやっと立ち上がった頃で蔵書も少なく、本格的に調べるためには、大阪市にある大阪府立図書館（中之島図書館）に行く必要があった。

中之島図書館は国鉄大阪駅から徒歩で15～20分程度の

中之島（堂島川と土佐堀川がVの字に合流する中州）にあった。茨木駅から電車に乗って大阪駅まで約20分。当時は学校に通う以外に大都市に一人で出かけるのは大旅行に匹敵するほどのワクワクする出来事であった。

両親の許可をもらい、ちょっぴり大人になった気分で、2ヶ月間、土曜日の午後と日曜日のほぼ全日を中之島図書館（写真）で過ごした。

写真にあるようにギリシャ建築風の堂々とした建物であり、建物内もゆったりとして重厚な雰囲気に溢れていた。これが私の図書館との本格的な出会いであった。カウンターに行って来館の目的と調べたい中身を話し、リストアップしていただいた資料を探して机の上に広げ、必要箇所をノートに書き留めるという作業を繰り返した。



（大阪府立図書館のHPより：玄関）

装丁の立派な重い百科事典を開くだけで偉くなったような気分になったことも懐かしい思い出である。その思い出が詰まったノートは今手元にない。高校卒業後は実家を離れたままであり、実家の数回の引っ越しの中で無くなってしまったらしい。



（大阪府立図書館のHPより：室内階段）

家では集中力の欠ける自分であったが、図書館に行くと不思議に集中力が発揮でき、作業も想像以上にはかどった。このときの図書館体験は、その後、自分が集中して勉強したり資料を整理したりする貴重な場所が図書館であることにつながっている。私は、図書館で調べた「部落」問題について「時の為政者が民衆を支配するために「さまざまな状態」を利用して民衆の中に対立構造＝差別意識を産みだし、支配しやすい状況を作り出した。その代表が職業に「貴賤」意識を植え付けたことである。」と報告したことが文集に残っている。

私は、1961年に金沢大学理学部に入学して大阪を離れた。生物学を専攻し、勉強も含めて大学生活を大いに楽しんだが、不思議なことに「大学図書館」の思い出が全くない。大学には大学全体の金沢大学図書館、私の所属する理学部図書館と生物学科図書室の3つがあった。大学図書館は、教養課程では定期試験時によく利用されていたと思うが、私は寮生の友人と一緒に試験勉強をしたので、試験期間は寮に入り浸りになっていた。また、専門課程に移ると、専門図書も多くは理学部図書館に、更に生物学関係の専門図書は生物学科図書室を中心に置かれていたので、必要なときには図書室で調べれば良かったのである。

しかし、当時の地方大学は予算的に恵まれておらず、最新の専門雑誌、例えば、Nature や Science などは図書室にはなかった。そこで、世話になったのが「アメリカ文化センター」の図書室である。戦後、アメリカの文化を日本に普及することを目的に、全国の主要都市に設置されたとのことであるが、金沢にも「センター」があった。雑誌は帯出不可であり、また今のようにコピー機も

常備されていなかったもので、時間のあるときにセンターに出かけ、必要な論文は全て手書きで写し取った。1編の論文を写し取るのに数時間は当たり前のように費やしたが、今さらながらよくぞやったものだと感心する。

大学院は名古屋大学に進学したが、図書館の在り方は金沢大学と同様であった。ただし、さすが旧制帝国大学だけのことはあり、生物学図書室には必要な専門雑誌はほとんど整備されていた。また、コピー機も現在に通じるタイプのものが普及していて、手書きで写し取る必要はなくなった。大学院では論文を執筆するのが当然のこととなり、再び集中的な図書室通いが始まった。図書室に行くと相変わらず集中力が発揮できた。中之島図書館の足元にも及ばないちっぽけな図書室であっても、私にとってはその雰囲気は共通であった。私は、そのちっぽけな図書室で「卵と精子」に関する本の1章を書き上げたが、その時に読んだ100編近くの論文がその後の研究の転換に救いとなるうとは、その時には予見すらできなかった。

1986年4月、大学院時代を含めて21年間過ごした名古屋を離れ山形大学に赴任した。山形大学も図書館の在り方はこれまでの大学と違いはなかった。違いは規模だけである。赴任当初は研究室の整備が最優先で、図書館（室）に通う時間はほとんど無かった。整備が順調に進み始め、卒論や修士論文の指導生諸君と至福の時間を共有し始めたときに管理職に選ばれることとなり、図書館に逃げ込む時間すら無くなってしまった。図書館通いが再び始まったのは、2006年8月に山形大学を退職してからである。

退職後も大学関係の仕事などがあり、作業の集中力を維持するために図書館に通うことにした。山形市立図書館である。パソコン持ち込みは不可であったが、自宅から比較的近いので必要書類を持って通い、作業も順調に進んだ。図書館で集中できる感覚は鈍っておらず、しばらくの間は何事もなく過ぎた。作業に疲れると開架図書のコーナーに行って面白そうな本を引き出して目を通していたが、ある日ハタと気が付いたことがあった。年齢的には50代と思われる複数の人をよく見かけるのである。そのことに気が付いてから改めて観察してみると、本を見る以外は椅子に座って寝ているのである。私が通った日には必ず見かけるので、早期退職なのか？ リストラなのか？ などと考えているうちに集中力が途絶えてしまい、市立図書館に通うことは断念したが、市民図書館の別の顔を見た思いがした。

私は、本年4月1日から東北文教大学に勤めることになり、再び大学図書館との出会いが始まろうとしている。

昨今の電子機器類の進歩はめざましく、ごく最近製品化された軽量小型パソコンにより電子書籍の活用があったという間に広がり、新聞、雑誌、単行本など、さまざまな分野に影響・拡大が続いている。さらには、教育用教材や教育そのもののデジタル化必要論が国際競争力の名の下に声高に叫ばれている。本物との出会いや触れ合い、人と人との触れ合いがますます希薄になっていく恐れはないのか。図書館もその影響を受ける恐れはないのか。改めて、図書館の本質について、理論武装をしておくことが必要な時代が来ているのではないだろうか。

図書館学生アルバイトの「私のおすすめ本」

現在図書館には、4人の学生アルバイトがおり、貸出返却などのカウンター業務をはじめさまざまな仕事にあたっています。

この度アルバイトの皆さんから「おすすめ本」を紹介してもらいました。ご覧ください。

笠原麻帆（総合文化学科1年）

「福音の少年」 あさのあつこ 著 角川書店 2005.7

私が高校生のときに、夏休みの読書感想文を書くために読んだ作品です。もともとあさのあつこの作品が好きで、「バッテリー」を始め、「ガールズブルー」など様々な作品を読んできました。

この「福音の少年」は、今までのあさのあつこの作品には見られない、登場人物それぞれの「闇」について描かれています。

主人公の「明帆」が抱える闇、恋人の「藍子」が抱える闇、友人の「陽」が抱える闇、とそれぞれに違った「闇」が様々な描写で描かれています。

登場人物それぞれの心情、行動が鮮明に書かれており、所々にはさまれる官能的な場面も物語の内容を深めています。



佐藤 愛（総合文化学科1年）

「1分間TOEIC®テスト英単語2000」 石井貴士 著 中経出版 2010.4

私は今、TOEICの勉強を頑張っています。短大に入ってから一度だけ試験を受けたのですが、思うようにはスコアが取れませんでした。そこで、本屋さんに行き、いい本がないか探したところ、これを見つけました。「1単語1秒で学習」という言葉に強く興味をもちました。めくってみると、本の使い方について詳しく書かれていました。また、この本は年間ベストセラー1位をとっています。

みなさんは単語をじっくりみたり、書いたりして覚えていませんか？実はそれはめんどくさい上に、かなり効率の悪い勉強法なのです。これを読めば、かなり楽に、効率よく英単語の勉強ができます。

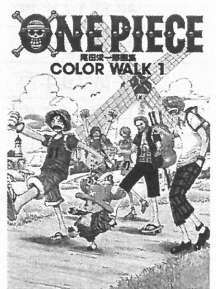
ぜひ読んでみてください。



島 悠大（子ども教育学科1年）

「ONE PIECE」 尾田栄一郎 著 集英社 1999.6

私がおすすめする本は、「ONE PIECE」です。この本は現在少年ジャンプで連載されており、大人から子どもまで幅広い年代の方々から支持されている漫画です。この漫画はルフィという少年が海賊王を目指し大秘宝ワンピースを求め海へと旅立つ話です。ルフィは様々な仲間たちと出会い、様々な敵と出会い一步一步海賊の高みへと近づいていきます。中でも、この漫画で一番興味を持つシステムは悪魔の実というものの存在でしょう。この悪魔の実というのは、食べると特別な力が身につく代わりに海に嫌われ泳げなくなってしまうという不思議な実です。特別な力には体がバラバラになるなどの超人的な能力、動物に変身できる能力、そして、火や雷などの自然の力などがあります。そのため、毎回新しい登場人物が出てくるたびに、どんな能力を持っているのだろうと考えてしまいます。その能力の多さから予測のできないパターンの敵なども数多く登場します。ここでは書ききれないほどの見所があり、とてもドキドキ感と感動がある漫画です。ぜひ、一度読んでみてください。



千葉麻央（総合文化学科1年）

「少年H」 妹尾河童 著 講談社 1997.1

この本は、H（妹尾肇）が第二次世界大戦中から終戦後にかけて経験した事が書かれている本です。戦争を大人の目線で書かれている本は多いと思います。しかしこの本は、Hが少年の目で純粋に感じた戦争のありのままが書かれています。太平洋戦争のまっただ中で小学生から中学生に成長する過程でHは、冷静に戦争の意義や意味について疑問を抱くようになっていきます。国民は戦局について殆ど知らされず、ただ軍隊の命令通りに働き、それに少しも疑問を抱くことがない。「天皇陛下の為に」と日本が間違った方向に走って行く。そんな日本を少年の目で見る事で当時のありのままの日本を知る事ができます。



平成21年度 図書館報告

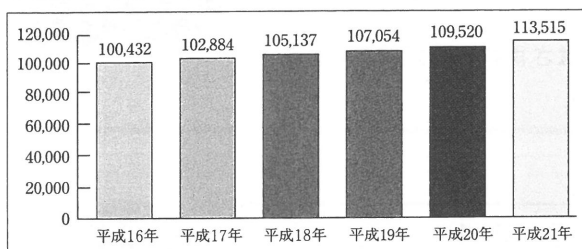
(山形短期大学)

資料収集

図 書	4,006冊
学術雑誌	87種
新 聞	16種
紀 要	600冊
A V 資料	67点

蔵書数の推移

(年度末：冊)



利用状況

年間入館者数

(人)

平成17年度	40,492
平成18年度	49,924
平成19年度	48,673
平成20年度	54,384
平成21年度	53,487

年間館外貸出冊数

(冊)

平成17年度	7,946
平成18年度	8,808
平成19年度	7,355
平成20年度	6,332
平成21年度	6,163

1人当たりの年間貸出冊数

(冊)

平成17年度	12
平成18年度	11
平成19年度	9
平成20年度	9
平成21年度	9

1日平均貸出冊数

(冊)

平成17年度	34
平成18年度	37
平成19年度	30
平成20年度	25
平成21年度	24

年間ビデオ・DVD貸出(館内)

(点)

平成17年度	918
平成18年度	1,007
平成19年度	748
平成20年度	414
平成21年度	533

貸出資料ランキング

〈 図 書 〉

書 名	著者名	貸出回数
1 アメリカの小学生が学ぶ歴史教科書	ジェームズ・M・バーダーマン/編	41
2 うたって演じて! パネルシアター	月下和恵/著	34
3 アメリカ黒人の歴史	本田創造/著	27
4 小林雅代のかならずできるベストパネルシアター	小林雅代/著	25
5 鑑賞 日本古典文学1 古事記	曾倉岑/著	18
5 ビジネス実務マナー検定実問題集3級	実務技能検定協会/編	18
7 みんなのパネルシアター: 乳幼児から高齢者まで楽しめる	阿部恵/著	17
8 新編日本古典文学全集17 落窪物語	三谷栄一/校注・訳	15
9 はらべこあおむし	エリック=カール/さく	14
9 これで安心! 保育指導案の書き方	開仁志/編著	14
11 すらすら読める土佐日記	林望/著	13
11 やさいのおしゃべり	泉なほこ/作	13
11 ふれあいいっぱいパネルシアターこれくしょん	阿部恵/著	13
11 ビジネス実務マナー検定実問題集1・2級	実務技能検定協会/編	13
15 らくらくかんたんパネルシアター	阿部恵/著	12
15 がたんごとんがたんごとん	安西水丸/さく	12
15 保育園・幼稚園のうたあそび	菅野満喜子/監	12
15 乳児保育: 養成校と保育室をつなぐ理論と実践	CHS子育て文化研究所/編	12
15 4歳児の保育資料: 12か月のあそび百科	阿部恵/著	12
15 5歳児の保育資料: 12か月のあそび百科	阿部恵/著	12
21 手づくりおもちゃアイデア集: 素材を生かす	立花愛子/著	11
21 実習に役立つ表現遊び: つくってさわって感じて楽しい!	岡本祐子	11
21 へんしんおばけ	あきやまだし/作・絵	11
21 告白	湊かなえ/著	11
21 やさしいこうさく4 かみコップのこうさく	竹井史郎/著	11

学生からの主なリクエスト

〈 図 書 〉

ジェネラル・ルージュの凱旋	海堂尊/著
重力ピエロ	伊坂幸太郎/著
行動経済学	友野典夫/著
ジョーカーゲーム	柳広司/著
だまされる目錯視のマジック	竹内龍人/監修・解説
だまし絵の描き方入門	杉原厚吉/著
図説映像トリックふくろうの本	広瀬秀雄/著
ヘッテルとフェーテル	マナー・ヘッタ・チャン/著
新参者	東野圭吾/著
きりこについて	西加奈子/著
ポジティブ心理学	島井哲志/著
人生なんて夢だけ	やなせたかし/著
父親力: 母子密着型子育てからの脱却	正高信男/著
筆談ホステス	斎藤里恵/著
婚活	山田昌弘/著
やさいのせなか	きうちかつ/さく・え
奇跡のりんご	石川拓治/著
白州正子自伝	白州正子/著
雲と天気	塚本治弘/著
ヒトラーの秘密図書館	ティモシー・ライバック/著
バッテリー NO.1~6	あさのあつこ/著
おはよう	さかいようすけ/作・絵
テレビと外国イメージ	萩原滋/著
恋愛結婚は何をもたらしたか	加藤秀一/著
あるキング	伊坂幸太郎/著
グラスホッパー	伊坂幸太郎/著
裁判員制度と法心理学	岡田悦典/編

本館は平成22年4月より、山形短期大学附属図書館から東北文科大学・東北文科大学短期大学部附属図書館となりました。